科目ナンバリング	G-LAS14 80001 LJ50						
授業科目名<英訳>	生命科学キャリアパス Career Paths in Life Sciences			担当者所属職名・氏名	生命科学研究科 教授　　片山　高嶺		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	キャリア形成系			使用言語	日本語
旧群		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・ 前期集中	曜時限	集中 火3-4限	配当学年	大学院生	対象学生	理系向

（生命科学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

生命科学領域の博士の進路は、アカデミックな研究者、バイオ関連企業における高度実務者、知財専門家、起業家、官公庁の行政専門家など多様である。本講義では、各分野で活躍する講師が提供する生命科学のキャリアに関する話題をもとに、生命科学分野の博士学位取得後のキャリア選択肢を広げ、社会で活躍する博士のイメージを具体化する。博士学位取得後の能動的なキャリアパス設計能力を身に付ける。

[到達目標]

受講学生は講義中での議論を通じて、科学（医学・生命科学・農学等）を学んだ博士が活躍する各キャリアを深耕し、必要なスキル・要件を理解できるようになる。社会のなかの科学の位置づけを理解し、自身の研究や習得した能力を有効に活用するキャリア設計ができるようになる。

[授業計画と内容]

（敬称略）

６月３０日　担当講師：仙石慎太郎（東京科学大学・教授）

「博士の多様なキャリアパスと求められる能力」

PhD (Philosophiae Doctor, Doctor of Philosophy)とは元来、特定の分野における専門性ではなく、学術研究に従事する者の資質の証です。すなわち、与えられた研究課題の着実な遂行だけでなく、研究課題を構想する能力、学術的で質の高い「問い」（リサーチ・クエスチョン）を設定する能力、分析的アプローチをもとに「問い」に答える能力、その為に必要なプロジェクトマネジメント能力やコミュニケーション能力、更にこれらの能力を最大限に発揮するためのリーダーシップ・フォロワーシップが含まれます。そして、これらの資質は他の分野のプロフェッショナルにも共通であることから、キャリア機会は研究職に限らず、多様な広がりをもっています。本講義では、PhD/博士の歴史を振り返りつつ、上述のスキル・リーダーシップ要素について解説したうえで、博士課程におけるキャリア形成と展望への意味合いを議論します。

７月７日　担当講師：辻徳治（名古屋大学・助教）

「分野を越えるという選択と研究者キャリアの現在地」

私は生命科学研究科に在学中、生体内の微量金属である亜鉛に関する分子生物学的研究により博士号を取得しました。その後、病院薬剤部という環境で脂質に関する基礎・臨床応用研究へと分野を広げ、現在は皮膚表皮の形成過程や表皮バリア機能に関する研究に取り組んでいます。異なる分野の研究に従事してきた中で、学生時代に培った技術や経験は分野を越えて活かされてきました。また、各分野での研究活動を支えてくださった方々との出会いはキャリア形成に大きな影響を与えてきました。本講義では、各キャリアの転機で何を基準に進路を選択してきたのか、研究経験が次の分野への展開にどのように活かされたのか、そして現在どのような方向性を見据えながら研究に取り組んでいるのかについてお話しします。

７月１４日　担当講師：高橋裕（東京大学・助教）

「企業とアカデミアにおける研究の現場から考えるキャリア形成」

生命科学キャリアパス(2)へ続く↓↓↓

生命科学キャリアパス(2)

博士課程修了後、製薬企業で約8年半にわたり研究員として勤務し、現在は大学で基礎研究に携わっています。企業とアカデミアの研究には共通点もありますが、目的や研究の進め方、求められる力には大きな違いがあります。両方の現場を長く経験して感じたのは、「どちらが良いか」ではなく、「自分にどちらが合っているか」という視点の大切さです。本講義では、企業とアカデミアで実際に行ってきた研究の内容を紹介しながら、それぞれの環境で感じた特徴、求められる能力、そしてキャリアを考える上でのヒントをお話しします。研究職を目指す皆さんにとって、自己分析や自身の将来を考えるきっかけになれば幸いです。

７月２１日　担当講師：根本理子（岡山大学・教授）
「海外留学・異分野経験が博士のキャリア形成にもたらすもの」
　話題提供者は博士号取得後に１年海外留学した後、３か所の大学・研究所で任期付きの職を経験し、2020年に現在のアカデミックポストに就きました。その間、工学・医学・農学の異なる研究分野での研究を経験してきました。任期付きの職を転々としている期間は将来への漠然とした不安などもありましたが、これまで経験してきた海外留学や異分野での研究経験が現在の研究を発展させることに大いに役立っていると感じています。本講義では、自身の経験を通して、博士課程における選択や準備がどのように将来の研究・キャリアにつながるのかについて、受講生の皆さんと一緒に考えたいと思います。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

出席および講義中の議論への参加、またレポート提出で評価を行う。全講義への参加とレポート提出を必須とする。体調不良や学会参加等でやむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。事前に連絡なき場合は欠席とする。

[教科書]

使用しない
講師によっては講義資料を配布予定。

[参考書等]

（参考書）
三浦有紀子、仙石慎太郎『博士号を取るときに考えること　取った後できること』（羊土社）
ISBN:978-4-7581-2003-6

[授業外学修（予習・復習）等]

各講師の授業概要を読み、議論に備えること。

[その他（オフィスアワー等）]

様々なキャリアを有する講師の方々の生の声を聞くことができる良い機会ですので、博士課程進学を考えている修士課程学生の履修も歓迎します。
コーディネーター（片山）の連絡先は、katayama.takane.6s@kyoto-u.ac.jpです。

[主要授業科目（学部・学科名）]